

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設モニタリング票（評価対象年度:令和3年度）

施設の名称	名取市震災復興伝承館
指定管理者の名称	一般社団法人名取市観光物産協会 会長 佐々木 洋
施設所管部課（室）	生活経済部商工観光課

1. 管理形態の推移 【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者（管理受託者）	摘要
令和2年4月1日～	指定管理者	一般社団法人名取市観光物産協会 会長 佐々木 洋	

(注) 管理形態欄には、直営・管理受託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要 【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	一般社団法人名取市観光物産協会 会長 佐々木 洋
	所在地	名取市増田1-1-3
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年0ヶ月）	
募集方法	公募 ・ 非公募	

3. 施設の概要 【施設所管課記入】

施設の名称	名取市震災復興伝承館
所在地	名取市閑上東1-1-1
設置年月	令和2年4月1日
根拠条例等	名取市震災復興伝承館条例
設置目的	東日本大震災の記憶及び教訓を後世に伝承し、当該震災を風化させることなく、防災意識を醸成するとともに、市民、復興支援者及び来訪者の交流を促進するため。
施設の内容	震災伝承施設
開館時間	4月～11月：午前9時30分～午後4時30分 12月～3月：午前10時～午後4時
休館日	毎週火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/2日～1/3）
指定管理者が行う管理運営業務	施設の使用の許可、維持・管理、その他市長が必要と認める業務
利用料金制度	採用の有無 有 ・ 無
	利用料金の名称

4. 施設の利用実績 【指定管理者記入】

	評価対象年度 (A)	前年度 (B)	前々年度	評価対象年度の 対前年度比 (%) (A) / (B)
	令和3年度	令和2年度	平成元年度	
開催日数	259日	254日		102.0%
延べ利用者数	27,067人	35,519人		76.2%
利用者数 (人/日)	104.5人/日	139.8人/日		74.7%
主な増減原因	コロナ禍による施設利用者の減少			

(注) 対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入すること。

5. 管理運営の収支状況 【指定管理者記入】

(1) 収入

(単位：千円、%)

	評価対象年度 (A)	前年度 (B)	前々年度	評価対象年度の 対前年度比 (%) (A) / (B)
	令和3年度	令和2年度	平成元年度	
指定管理料	8,300	8,300		100.0%
利用料金収入	100	64		156.3%
その他	0			
収入計 (ア)	8,400	8,364		100.4%

(2) 支出

人件費	2,621	3,536		74.1%
施設管理費	3,575	2,717		131.6%
事業運営費	1,258	110		1143.6%
その他	119	687		17.3%
支出計 (イ)	7,573	7,050		107.4%

(3) 収支

収支 (ウ) = (ア) - (イ)	827	1,314		62.9%
前期繰越収支差額	1,314			
次期繰越収支差額	2,141	1,314		162.9%

(注) 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. サービス向上や利用者数の増加等のために実施した主な取り組み 【指定管理者記入】

<サービス向上の取り組み>

- ・来館者の問い合わせには、引き続き丁寧な対応を心掛けている。
- ・周辺施設の観光案内や域内の観光情報を発信するため、各種パンフレットやイラストマップの配布を行った。また、連携する震災復興施設や旅行会社からの問い合わせに応じ、当館の施設案内や各種観光パンフレットの発送を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、衛生面の施策（マスク着用のお願、入館時の体温測定、館内複数個所に消毒用アルコールスプレーの設置、館内の清掃および換気の徹底）を行った。また対策ガイドラインに則り、館内の滞在人数を状況に応じて制限し、コミュニティスペースの貸出予約は引き続き受付を停止している。
- ・来館者へ施設利用に関するアンケート調査を行い、更なるサービスの向上と改善に努めた。
- ・名取市をPRするため、名取市オリジナル手ぬぐいの販売を開始した。

<利用者数増加のための取り組み>

- ・タブレット端末を用いた、震災当時の関東地区の様子をバーチャル体験できる展示を実施した。
- ・海上保安庁の東日本大震災における活動パネル展を実施した。
- ・貞山運河の現在までの歴史をたどったパネル企画展『貞山運河を知る』を開催した。
- ・なとり復興プロジェクトによる「なとり・関東追悼イベント2022」と協働し、館内に絵灯籠の展示を行った。
- ・名取トレイルセンターと連携し、「みちのく潮風トレイル ハイキングパスポート」の市町村スタンプを設置し、また、名取市震災復興伝承館のオリジナルスタンプも設置した。
- ・東北レジリエンス・ツーリズム実行委員会と連携し、企業研修や教育旅行、国際会議のエクスカージョン等をターゲットとした、震災復興関連施設をめぐるツアーの造成を行った。

7. 施設利用者の主な声やその対応状況 【指定管理者記入】

- ・開館当初より、堤防上の散策や釣りなどのレジャー活動のついでに来館される方が非常に多く見受けられ、入館料無料のため気軽に立ち寄れる施設として利用されている。
- ・被災前の関東地区のジオラマに対しての要望（建物の位置や階数、表記されている名前が違うなど）には、引き続き可能な限りの対応を行っている。
- ・一部来館者より、東日本大震災の被害状況や復興にまつわる詳細な情報等を求められた際の対応方法として、駐在している職員が出来るだけ柔軟に対応ができるよう、名取市生活経済部商工観光課職員による、協会事務局員と伝承館担当職員向けの講習会を開催した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止策に則り、館内滞留人数を最大40名に制限しているが、それを上回る団体での施設の利用については、引き続きご案内をされる震災語り部の方々や旅行会社などとの相互理解を進めていく。
- ・一部の利用者から、風のポストに自由形式で手紙を投函し、その公開を希望されるケースがありますが、投函内容とその公開に関して市と協議の上、運用ルールを定めた。個人を特定し得る情報に留意し、展示室内で約1年間を目途に閲覧が可能になる様に、ファイルや書棚の調達をした。

8. 施設の管理運営における課題 【指定管理者記入】

- ・新型コロナウイルス禍の後、施設利用の受け入れを強化し、利用者の増加に繋げていく。

9. 管理運営状況 【施設所管課及び指定管理者記入】

評価項目		着眼点	自己 評価	所管 評価
1. 実施 体制に 関する 評価	管理運営体制	管理運営に必要な人員配置、組織体制を整備している。	○	○
		業務に必要な職員研修や教育等を適切に行っている。	○	○
		各種管理記録を適切に整備、保管している。	○	○
	施設等の維持 管理等	施設、設備等の清掃、保守点検、修繕等を適切に行っている。	○	○
	安全対策	日常の安全管理や緊急時のマニュアル整備等の体制を整備している。	○	○
	個人情報の 保護	個人情報の管理を適切に行っている。	○	○
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	○	○
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	○	○
		法令等の遵守	特定の者に有利又は不利な取扱いをしていない。	○
	法令等の遵守	開館時間、休館日、使用許可等の運用が法令等に基づき適正に行われている。	○	○
その他、関係法令等が遵守されている。		○	○	
2. サー ビスの 内容や 水準に 関する 評価		指定事業の 実施	事業計画書等に基づき適切に事業を実施している。	○
	自主事業の 実施	業務の再委託は事前に市の承諾を受け、委託先の業務を適切に管理している。	○	○
		施設の設置目的に沿った自主事業を実施している。	○	○
	利用者の満足 度向上	利用者の満足度向上に向けた取組みを行っている。	○	○
	利用者の苦情、 要望等の把握 とその対応	利用者アンケートなど、利用者ニーズの把握にむけた取組みを実施している。	○	○
		苦情、要望等について、受付窓口の整備や対応を適切に行っている。	○	○
	利用状況等	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	○	○
3. 経営 状況に 関する 評価	収支状況等	事業計画書等に基づく妥当な事業収支である。	○	○
		経費の節減や使用料収入の向上に向けた取組みを行っている。	○	○
		専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	○	○

【評価の基準(目安)】

評価		評価の考え方
◎	(優 良)	協定書や事業計画書等より優れた内容で管理運営を行った。
○	(良 好)	協定書や事業計画書等に基づき適正な管理運営を行った。
△	(課題有)	協定書や事業計画書等を下回る内容であり、一部の業務に改善が必要である。
×	(要改善)	協定書や事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかったため、改善を要する。

※該当しない項目については、「—」を記入する。

10. 施設所管課の総合評価 【施設所管課記入】

令和2年5月の開館から3年度末まで約1年10か月の間、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、感染防止策を講じながら施設管理に努めてきており大きな事故等は発生していない。安定した施設運営を行っているものと認めることができる。

利用人数は当初目標の7,000人を大きく上回る27,067人となっているものの、コロナ過による影響が強まったことから前年度に比べての来館者数は減少した。

※以下、個別評価について

- ・「施設の設置目的に沿った自主事業を実施している」について
コロナ過による影響の中でも連携団体の企画を積極的に受け入れていると認められる。今後は指定管理者の強みを活かした自主企画の実施を期待するところである。
- ・「利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である」について
コロナ過の影響下での運営であり評価は難しいが、より多くの方に来館いただく、あるいは来館者一人ひとりの学びを深めて施設目的を達成する努力を期待する。